

暖流

公益社団法人岡山青年会議所

Since 1951



岡山市長が語る
都市の未来像

vol.01 2026 January



2026

岡山青年会議所スローガン

行動連環

行動連環

「行動連環(こうどうれんかん)」というスローガンには、

持続的な成長と地域への貢献を目指す強い意志が込められています。

ロゴマークでは、会員一人ひとりの「行動」が次なる「行動」を呼び起こし、

その連なりが環となり、やがて新たな行動を生み出していく様子を表現しています。

自ら考え踏み出す一歩が、地域社会にポジティブな変化を継続的にもたらし、

岡山をより良い未来へとつないでいくと信じ、止まることなく前進していきましょう。



homepage address

<https://www.okjc.org>



facebook



Instagram



岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業や運動のご報告など随時更新しております。
お気軽にホームページをご覧ください。

岡山青年会議所

検索

暖流

公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951

発行日 令和8年1月
発行 公益社団法人岡山青年会議所
〒700-0985 岡山市北区厚生町3丁目1番15 岡山商工会議所ビル6階
TEL 086-223-0938 FAX 086-225-0500 email info@jci-okayama.com
発行責任者 公益社団法人岡山青年会議所
拡大・広報戦略委員会
委員長：森田貴統
太宰啓太・花房利宇・小野優・片岡大地・梶谷拓史・長瀬健詳・萩田正樹・鶴田康仁

次号は令和8年5月発行予定です。

特・別・対・談

市民の心を豊かに 岡山のまちに 「わくわく感」を 大森市長 四期目の挑戦

大森 雅夫
岡山市長

大北 大士郎
岡山青年会議所 第76代理事長

四期目を迎えた大森雅夫岡山市長と、
第76代大北理事長が、
スポーツ、文化、経済、教育、
様々な側面から岡山の可能性を追求しました。

大北 本日は、2025年を振り返り、岡山市の現状と未来について伺いたいと思います。まず、大森市長から2025年をどのように捉えていらっしゃるでしょうか。

大森 2025年は、支線バス「FLAt」の運行開始が最も印象的な出来事でした。私は以前から公共交通の重要性を訴えてきましたが、この公設民営のバスが動き出したことは、岡山の交通戦略において画期的な一歩です。特に、郊外と中心部を結ぶこの新しい交通手段は、単なる移動手段以上の意味もっています。市民の方々が自家用車に頼らず、気軽に移動できる環境を整えることで、地域間の連携を強化し、消費活動や社会参加を促進したいと



暖流

公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951

暖流発行にあたり

あけましておめでとうございます。

岡山青年会議所の理事長として、新年のご挨拶を申し上げます。

昭和の幕開けから100年を経過し、昨年、岡山青年会議所は創立75年という節目を迎えました。76年目という新たな一歩を踏み出せるのは、ひとえに長きにわたり地域に真摯に向き合ってきた諸先輩方のご尽力あってこそ心より感謝申し上げます。

激動の100年を経て、現代はものの豊かさが満たされAIなどの情報革命が急速に進む大きな転換点に立っています。こうした変化の中で私たち青年には、こころの豊かさを追求し正解のない時代を力強く生き抜く「自らの意思と一歩を踏み出す勇気」が求められています。

そこで本年は「私たちの行動が未来を変える」を信念に運動を展開してまいります。私たちの行動は、決して一人で完結するものではありません。それぞれの一歩が誰かの勇気となり、仲間の挑戦が地域を巻き込む。この行動の連鎖につながり合い広がり循環することで、組織と社会を前に推し進める大きな「行動の環の連鎖」となります。

「ひとづくり」を根幹とし、地域と未来を動かす「まちづくり」強みを活かす「連携」成長の絆を紡ぐ「交流」そしてこれらを支える「総務拡大戦略」の全ての活動において、この行動の環を広げ強固な基盤を築きます。

この新年にあたり「古きを温(たず)ねて新しきを知る」の精神を胸に、私たちは歴史と伝統に感謝しつつ未来を担う者としての自覚と誇りをもって挑戦いたします。40歳までという限られた時間の中で、多様な価値観をもつ仲間たちと切磋琢磨し地域社会の発展に寄与する力強い一歩を共に踏み出していきたいと思います。

皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

2026年が皆様にとって実り多き一年となることを願っております。

行動連鎖

公益社団法人岡山青年会議所
2026年度 第76代理事長
大北 大士郎

岡山への深い愛情が未来を動かす



大北 大士郎
Daishirou Ohkita

1987年生まれ。2010年阪南大学卒業。2016年に株式会社オオキタ・コーポレーション入社後、2020年同社専務取締役役に就任。公益社団法人岡山青年会議所には2018年に入会し、2024年に総務室(常任)、2025年ひとづくり室(副理事長)、中国地区岡山ブロック協議会(副会長)を歴任。本年、第76代理事長に就任。

大森 雅夫
Masao Omori

1954年2月、岡山市に生まれる。1977年、東京大学法学部卒業後、建設省に入省。1985年熊本県企画開発部企画課長、1994年建設省大臣秘書官事務取扱、2003年内閣府大臣官房会計課長兼内閣官房内閣参事官、2008年内閣府政策統括官(防災担当)、2012年国土交通省国土政策局長などの要職を歴任し、2013年に退官。同年10月に岡山市長に就任し、現在4期目。座右の銘は「信なくば立たず」「天は自ら助くる者を助く」。

岡山の未来を紡ぐ 大森市長が描く「わくわくする」まちづくりとは

の割合を増やし、他を疎かにすることなく、十分な予算配分をしながら、バランスの取れたまちづくりを進めているのです。

大北 介護事業を運営する立場から、税金の使い方には慎重であります。地域の活性化と岡山の発展のためには、前向きに捉えるべきだと考えています。岡山青年会議所(JC)に求めることはありますか？

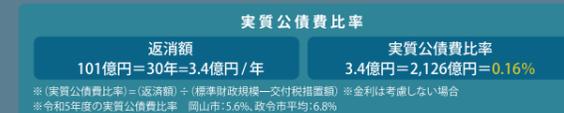
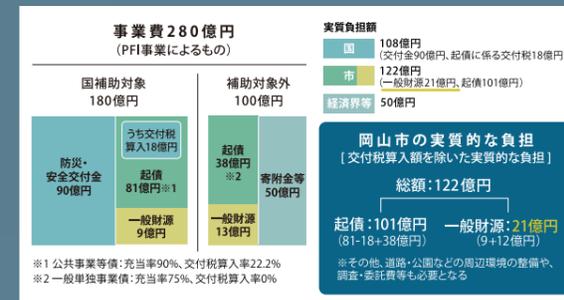
大森 岡山の豊かな歴史、例えば造山古墳の重要性など、地域の魅力を積極的に発信してほしいです。「若者、バカ者、よそ者」の視点で、岡山を盛り上げる革新的な事業を期待しています。単年度制の制約があるかもしれませんが、複数年にわたる取り組みも検討してほしいですね。

大北 2026年度は、子供の主体性を育む事業、地域のつながりを強化する活動、経済や社会の仕組みを学ぶ機会の創出などを検討しています。岡山市や他団体と連携し、まちづくりに貢献したいと考えています。

大森 ぜひ。岡山の未来を切り拓く活動に期待しています。



アリーナ整備事業費の財源計画[※]



考えています。例えば、お酒を飲む際の心配や駐車場の制約などから解放され、ゆったりとまちを楽しんでいただくことが目的なのです。

大北 確かに、岡山のまちの様子も大きく変わってきていますね。再開発や駅前活性化、市役所周辺の工事など、まちの変化を肌で感じています。一方で、郊外と中心部の二極化も気になるようです。

大森 その通りです。日本全国で同じような課題を抱えていますが、動くところは積極的に動き、その波及効果を他のエリアに応用していくことが重要です。民間投資の伸びは政令市の中で2番目に高い水準を達成しており、これは以前の停滞への反動でもあり、我々の誘引策の成果でもあります。

経済が動くことは、大きな意味でプラスだと考えています。プロスポーツの面でも、ファジアーノ岡山のJ1残留やトライフープの活躍、そしてハレノワでの多彩な文化活動は、岡山の魅力を大いに高めています。

大北 四期目を迎えられる大森市長は、今後どのようなまちづくりを考えていらっしゃいますか？

大森 私の最大の目標は、市民の心の豊かさを醸成することです。単に経済的な発展だけでなく、スポーツや文化を通じて、岡山に「わくわく感」を創出したいと考えています。岡山市は暮らやすさに強みがある一方で、刺激や心への働きかけが少し物足りないといわれていますが、それを改善したいのです。産業、まちづくり、文化活動など、様々な面で岡山の魅力を高め、「こんな素晴らしいお店がある」「こんな面白い取り組みがある」と感じてもらえるような環境づくりを目指しています。

大北 市長の立候補時の動画を拝見しましたが、歴史と文化を重んじ、岡山への愛着を育むという理念に深く共感しています。スポーツを通じたわくわく感の創出も、非常に重要だと考えています。それに伴い、岡山市ではアリーナ構想が持ち上がっています。アリーナを整備することにより、岡山市にどのような効果を期待されていますでしょうか。

大森 アリーナは単なるハコモノではありません。岡山の未来を象徴する「標準装備」と位置づけています。経済効果は20年間で2,800億円と試算されています。総事業費280億円ばかり注目されますが、国の交付金等を活用することで、建設時に市が負担する一般財源は21億円まで圧縮されます。

[※左注釈を参照]

スポーツイベントやライブなど、多目的に活用できる施設を目指しています。特に、若者の流出を防ぎ、岡山の魅力を高める重要な施設になると確信しています。また、10年間で子育て支援には1.9倍ほど、教育には2.3倍ほど予算

未来を創る若きリーダーの集団『J.C.』!

岡山青年会議所(岡山JC)が目指すもの

PICK UP! 活動詳細レポート

まちづくり事業

～地域と共に未来を創造する～

岡山JCは、まちの賑わいと文化を創造する事業をおこなっています。夏は「うらじゃ」で共生と融和の精神を伝え、市民総参加の熱気を生み出しています。また、池田動物園と連携した事業を毎年おこなうなどの持続可能な地域社会の実現を目指す事業をおこなっています。



青少年育成事業

～次世代に

「夢」と「郷土愛」を伝える～

青少年育成事業として、昨年はデジタル技術やITに関する学習機会を提供するイベントや参加型の防災事業など、子供たちが主体的に考え、行動する機会を提供できるような育成事業をおこなっています。



会員開発事業

～40歳までに

地域を牽引する人材へ～

岡山JCは、1951年の設立以来、「明るい豊かな社会の実現」を目指し、まちづくり、人材育成、国際交流など多岐にわたる活動を展開しています。20歳から40歳までのメンバーが、自己成長と地域の未来のために情熱を持って挑戦し、変革の担い手として活動しています。

Close up!

メンバーの声

メンバーB (38歳)

「仕事では得られない、社会全体を見渡す視野が身につきました。40歳までのタイムリミットが、本気で自己成長に取り組む原動力になっています。」

詳細はこちらから!



岡山JCは、単なる組織ではありません。

それは「社会への貢献」と「自己成長」が交差する、人生を変える学びの場です。

私たちは、常に変化を恐れず、情熱をもって行動することで、「明るい豊かな社会」という理想を実現します。

私たち岡山JCの使命

岡山青年会議所(岡山JC)は、「明るい豊かな社会の実現」という理想のもと、地域を牽引する20歳から40歳までの青年経済人・社会人による団体です。特定の政党・宗派に偏らず、情熱と行動力をもって地域社会の創造に貢献しています。

岡山JCの三信条 活動の哲学



修練

自身を磨き、高い指導力と人格を養います。



奉仕

公共心を重んじ、率先して地域社会に貢献します。



友情

互いに信頼し合い、固い絆と理解を深めます。

◆ 岡山JCの主な活動フィールド ◆

まちづくり

地域活性化と政策提言

青少年育成

次世代リーダーの育成

会員開発

自己成長とリーダーシップ養成

あなたも未来の担い手に!

2026年度
76代理事長紹介



公益社団法人岡山青年会議所
2026年度 第76代 理事長

株式会社オオキタ・コーポレーション
専務取締役

大北 大士郎

Daishirou Ohkita

【学歴】

2006年3月 岡山東商業高等学校 卒業
2010年3月 阪南大学 卒業

【職歴】

2016年6月 株式会社オオキタ・コーポレーション 入社
2020年10月 同社 専務取締役 就任
現在に至る

【JIC歴】

2018年 [岡山青年会議所]
後期入会
会員研修委員会(委員)

2019年 [岡山青年会議所]
岡山JICブランディング委員会(委員)
[日本青年会議所]
中国地区協議会
総務・広報・渉外委員会(委員)

2020年 [岡山青年会議所]
総務委員会(幹事)

2021年 [岡山青年会議所]
まちづくり委員会(副委員長)
[日本青年会議所]
中国地区岡山ブロック協議会(総括幹事)

2022年 [岡山青年会議所]
地域道徳向上委員会(副委員長)
理事長チーフセクレタリー

2023年 [岡山青年会議所]
地域連携強化委員会(委員長)

2024年 [岡山青年会議所]
総務室(常任理事)
財政規則審査会議(幹事)
[日本青年会議所]
中国地区岡山ブロック協議会(副会長)

2025年 [岡山青年会議所]
ひとづくり室(副理事長)
兼 会員研修委員会(委員長)

行動連続



第30回うらじゃ



第51回岡山大阪交歓会



京都会議

公益社団法人岡山青年会議所

年間事業フレーム 2026

岡山をより良い未来へと繋いでいくと信じ、
止まることなく前進する1年に——



- ▶ 前期親睦事業
会員研修委員会
- ▶ 第62回岡山ブロック大会式典・懇親会



- ▶ 青少年育成事業
こども未来育成委員会



- ▶ 池田動物園活性化事業
地域連携価値創出委員会



- ▶ 1月14日
特別会員・現役会員合同
新年賀詞交歓会
渉外委員会
- ▶ 1月24日
京都会議・LOMナイト
渉外委員会



- ▶ 地域活性化事業
おかやま活性プロジェクト委員会
- ▶ 第31回うらじゃ
うらじゃ委員会



- ▶ 青少年育成事業
こども未来育成委員会
- ▶ 地域活性化事業
地域連携価値創出委員会
- ▶ 9月16日 予定
特別会員・現役会員
合同例会及び懇親会
例会委員会



- ▶ 地域活性化事業
おかやま活性プロジェクト委員会
- ▶ 市民公開例会
拡大・広報戦略委員会



- ▶ 12月23日 予定
後期親睦事業
会員研修委員会



第76代理事長予定者決定お祝い会



防災Camp訓練 OKAYAMA2025



みんなでわくわく! 福祉とおかやまフェスタ



後期親睦事業

卒業生 妹尾 愛希

現役会員 江田 厚志

JCで出会った「濃密」な絆

「まず、JCに入会して最も強く感じた人とのつながり、絆についてお聞かせください。」

妹尾 「一言でいえば、「濃密」です。他の団体にはない、先輩方や同期との交流、LOM全体としてのつながりの深さがあります。誰が何の仕事をしているか、家族構成までなんとなく分かるような深い関わりは、本当にJCならではの。これは、脈々と受け継がれてきた岡山JCの絆の強さだと感じています。」

江田 私は現在、市議会議員として様々な会に参加していますが、この世代の企業人が集まる規模と熱量は他に例がありません。入会して間もない私にも、まちづくり事業の相談や「知り合いを紹介してほしい」といった要望がポンポンと入ってきます。皆さんが得意分野を活かして協力し合う体制が既にできていて、その即座の連携力にはシンプルに驚きました。」

地域を動かした印象的な事業

「長年活動されてきた妹尾先輩、入会して間もない江田君から見て、特に印象に残っている事業は何でしょうか？」

妹尾 2021年の委員長として手掛けた「スパイラルeスポーツ桃太郎カップ2021」です。コロナ禍で緊急事態宣言下、事業は完全にオンラインのみという状況でした。それでも「やり遂げたい」という私の強い想いで当時の執行部が動いてくれました。結果的に44都道府県から参加をいただき、岡山JCの事業を楽しんでもらうというブランディングに大きく貢献できたと思っています。」

江田 私は「防災Camp訓練 OKAYAMA2025」が大変印象的です。皆さんの手弁当感あふれる準備が素晴らしかったです。特に良かったのは地域との関わりです。廃校を活用し、地域のおじさんに声をかけられた際、「地域の子供たちを巻き込んで使ってくれるのは本当に嬉しい」と大変喜んでいただきました。何より、子供たちが心から楽しそうにしている姿を見て、「行政ではできない、まさにこの景色が見たかったんだ」と感慨深く思いました。」

JC活動がもたらした人生と仕事への影響

「JCでの仲間との出会いは、ご自身の人生観や仕事にどのような影響を与えましたか？」

妹尾 私はJCに入っていない自分を想像できません。おそらく別に入らなくても生活はできていたと思います。しかし、今の自分のように成長できていたかという点、そうではなかったでしょう。以前は事業や成果など自分のことばかりに目を向けていた私が、JC活動を通じて「まちのことを一生懸命考え、まちづくりを考える」「自分に変わったことが、人として一番大きな成長です。特に、私にはハンディキャップをもつ子供がいるからこそ、まちを歩くときも「この道を歩きやすくするにはどうすべきか」と、市民目線で考えられるようになりました。」

江田 影響は、多分後から気づくものだと思いますが、気づかないところでもう出ていると確信しています。「入ってみないとわからないこと」「やってみたらこそいえる」ことが沢山ある。同世代の経営者が集まるこの場所で、相乗効果を生み、私自身も成長したい。岡山市の中で私が入会した意味を、皆さんと関わる中で見出したいと思っています。」

築いたネットワークが拓く未来

「最後に、JCで築いた強固なネットワークを今後どのように活かしていきたいか、VISIONをお聞かせください。」

妹尾 もちろん、築き上げてきたネットワークは全て、地域のため、そして未来の子供たちのために使っていきたい。民間である私たちだからこそできることは沢山あります。このネットワークを最大限に活用して、一つでもまちを良くするための一助となるのが私の夢(VISION)です。江田 私の目標は「穏やかな生活を送ること」です。そのためにも今は、ネットワーク作りを駆けていきたいと思います。なぜなら、今私たちが築いたネットワークによって、後世や次世代が活動しやすくなる「楽」につながれば、それはまた次の面白い発展を生むと思うからです。そして何より、「岡山市で生まれてよかった」と思えるような、郷土愛あふれるまちづくりの一助となるのが私の夢(VISION)です。」



岡山JC卒業生 × 現役会員対談



岡 勇作
1995年生まれ 2025年後期入会
有限会社岡オート商会勤務



大森 将平
1985年生まれ 2016年に入会
株式会社大組 代表取締役



江田 厚志
1989年生まれ 2025年後期入会
岡山市議会議員



妹尾 愛希
1985年生まれ 2018年に入会
飛鳥グループ協同組合 理事

JCの節目に立つ二人の視点

卒業生 大森 将平

現役会員 岡 勇作

走り切った10年とこれからはじまる10年

「大森先輩が約10年間活動を続けてこられた理由、卒業にあたり感じること、岡君はこれからJCでの10年が始まる立場としての気持ちを聞かせください。」

大森 10年前に入会して以来、辞めるという選択肢がありませんでした。仕事と同じで、与えられた「やるべきこと」をひたすらやってきたという意識です。卒業という節目は、何かを「達成した」というよりは「一区切り」という感覚が強いですね。むしろ、これからは本場のスタートだと思っています。現役の間は辞める自由がありますが、卒業生には辞める権利がありません。卒業後はJCを悪くいうことは、自分がやってきたことを否定することになる。だからこそ、卒業してからはさらにJCを応援する先輩でありたいと考えています。」

岡 不安はほぼないです。特に、人間関係や会社の理解を得て活動を続けていけるかという点です。会社全体で応援してくれているわけではないので、仕事との両立をどう図り、理解してもらおうかが不安です。一方で期待も大きいです。入会して約半年が経ちましたが、半年前の自分からは今の自分を想像できませんでした。半年後、一年後には、今の自分が想像できないような新しい自分になっているだろうという期待があります。」

大森 多くの会員が会社の理解を得ることに悩みますが、それは結局、自分が信用されていないだけの話です。困難な状況を工夫して乗り越えることこそ、JC活動を通して学ぶことです。時間をどういう意義で使うかを意識し、これから10年間、活動に取り組んでほしいです。」

JC活動で「学んだことは何か？」

「お二人が最も「学んだ」と感じることは何でしょうか？」

大森 学んだことが多すぎて難しいですが、強いていえば「意味を考えるようになったこと」です。何をやる時も「どうしてこれをするのか」「これをしたらどうなるのか」という意味を想像するようになりました。これはJCに限らず、仕事にも活かせる力だと思います。知らない場所で挨拶をする時でも、その会が何を目的に開かれているのかを自然に調べる習慣が身についたのは大きな学びです。」

岡 一番大きいのは「まず自分が動かないといけない」ということです。従業員時代は受け身でしたが、JCに入って、話し合いで「やろう」と決めても、誰かが音頭を取って動かないと現状は変わらないということに気づきました。率先して役割を担う人の重要性を感じています。」

「続ける価値」と「始める価値」はどこにある？

「大森先輩にとっての「続ける価値」、岡君にとっての「始める価値」とは何でしょうか？」

大森 長く続けた方が学べることは多いのは間違いありませんが、それ以上に「途中で辞めるデメリット」が大きいと思います。JCを途中で辞めて悪い印象を残してしまうと、それが仕事などに悪影響を及ぼす可能性があります。ただ会員でいるだけでなく、積極的に活動を続け、信頼を積み重ねることが一番大事な「続ける価値」だと思います。」

岡 「見る世界が広がること」が最大の「始める価値」です。自分の会社や同業者だけの付き合いで終わらず、JCは本当に赤の他人、しかもレベルの高い人たちが集まる場です。そういう人たちと出会えることが財産になり、自分の中の前提がひっくり返るくらい世界が広がる点に価値を感じています。」

JCの未来に向けて、二人が考える理想の姿は？

「未来に向けてJCがあるべき理想の姿を教えてください。」

大森 時代遅れの団体にはなっていないかもしれませんが、真剣に活動する人が集まる団体であってほしい。負荷があるから入りたくないという人もいますが、その負荷を乗り越えて卒業した時に「本当に入ってよかった」と思える団体であるべきです。また、まちづくりの事業では「派手なイベント」で1万人集めるのではなく、その事業をきっかけに他の団体や学生の活動が広がり、根本的な課題解決につながる流れを作れる団体であってほしいと願っています。」

岡 今の時代、学校や親も子供を叱れず、他人に注意できない人が増えています。JCは、あえてリスクを取ってでも他人に何かをしてあげられる人を育てる場であってほしいと思います。」